

第六日 金	解禁論	小池 四郎	第六日 夜	社會運動指導理論 (二)	赤松 克磨
第七日 階級論	小池 四郎	第七日 夜	英國労働黨發達史 (二)	鴉井 貫一郎	

學生數 二百三十九名  
(内八幡支部 百二十七名)

以上の概況によつて略々推察し得る通り、名實相伴ふ民衆政治學校であつたが、此の多數の學生の中に、吾八幡支部のものが、その殆ど六割を占め得たことは、勿論、地理的の便利關係にも依ること多大であつたらうが、吾が部不斷の活動による黨員の學問熱の旺盛と學生募集の猛運動が興つて力あつたと言つて差支ないであらう。

母數にして一週間、延時間にして三十九時間の學問への親しみは、これを學問の悠久性から見れば、殆んど言ふに足らないものであつたらう。そしてまた一科目の總論的智識さへも與へ得なかつたらう。けれども、それは、過半数千年支配階級の専恣なる民衆支配と飽くなき搾取のみに協力して來た學問を、斷乎として擊滅すべき新社會建設運動への第一歩の一大烽火であり、そして、それと共に、汲めども盡きぬ正しき學の泉を民衆の實生活の中に求めんとする最初の一級であつた。

吾等の政治學校が與へた學問、其れは洵に言ふに足りない狭く狭いものであつた。然し其れば、疑もなく、謂はば、一粒の麥であつた。一粒の麥、それは人に與へんと欲しても手を出して貰ひ手もなき取るに足らないものである。けれども、是れを苗床に蒔き、更らに畑に移して、暑き寒さに氣を付け、雨と風に注意し、絶えず適度の肥料を施すことを怠らないならば、やがて喜びの收穫の日には、吾々の生命を養ひ、生活を保證するであらう。吾等は吾等の政治學校が與へて呉れだ一粒の麥を大切に培ひ、闘争への出立点とすることを忘れてはならぬ。

### 三、演說會報告

吾支部の演說會報告の記述は、一月廿八日の支部第二回大會直後の分會結成及び來るべき市議戦を前にして其の擴張

のため 各選挙區毎の演說會から始まる。

二月、三月中此の目的のため開催せられたる演說會は左の通りである。

分會名	開催度數
大藏分會	二
枝光分會	二
中央區分會	一
尾倉分會	二
前田分會	二
黒崎分會	一
計	一〇

超へて、四月に入るや、市議戦への征途を最も意義深く、最も活潑にスタートするために、支部主催を以て、全市六選挙區に涉つて鴉井代議士の「第五十六議會報道大演說會」を開いた。

市議戦に入りては、既に第二章に於て報告せる如く、社會民衆黨各地支部の精銳をすぐり、吾が八幡支部また全力を傾倒して、彈壓の砲火をくぐりつゝ全市隨所に白熱的大激戦を展開した。

五月初旬、戦勝に狂喜した吾が支部は、同じく鴉井代議士を陣頭に立てて、市内六ヶ所の選挙毎に、宣誓式及び當選感謝大演說會を開催して、八幡十四萬市民の潮の如き聲援と歡呼を享けた。

六月市會報告及び市政批判演說會 主催 尾倉分會

九月十九日夜、市内二ヶ所に、本部特派代議士、鈴木、鴉井兩氏の黨宣傳大演說會を開催。

前後演說會を催すこと 回、黨勢の飛躍的發展は固より、社會民主主義思想の澎湃たる漲溢を見、殊に支部

幹部及び前衛分子の辯力が此等の實戦の經驗を通して伸々として成長し來つたことは、支部今後の闘争力の上に一大貢獻を爲すものである。

### 四、聯合會活動と援助